

## 令和七年度卒業式 式 辞

春の訪れを感じる今日のよき日に、このように厳かに令和七年度滋賀大学卒業証書・学位記並びに大学院学位記授与式を挙行できますことは、滋賀大学にとって、この上ない喜びであります。教育学部二三〇名の卒業生の皆さん、および大学院教育学研究科教職修士課程二八名、並びに特別支援教育専攻科八名の修了生の皆さん、経済学部四五八名、データサイエンス学部九二名の卒業生の皆さん、および経済学研究科博士前期課程二九名、博士後期課程二名、並びにデータサイエンス研究科博士前期課程五五名、博士後期課程三名の修了生の皆さん、本日は誠にありがとうございます。またそれぞれの学生を支えてこられた保護者やご家族、ご友人、関係の方々に対しまして、その力強いご支援とご助力に敬意を表しますと共に、厚く御礼申し上げます。皆さんの学生生活を振り返りながら世界で起きた出来事と、皆さんがこれから挑戦する未来について三つのこととお話したいと思います。まずは、世界の不安定化についてです。次は日本の少子化についてです。最後に技術進歩による社会の変化についてです。

まず世界の不安定化について振り返ってみたいと思います。ロシアによるウクライナ侵攻が始まったのは二〇二二年二月二十四日ですが、すでに四年をこえて長期化しています。大国の人的犠牲をいとわない攻撃の前に、小国が自身の領土と独立を守るために戦っています。ロシアはウクライナ領土の二割程度を占領するに至っていますが、戦線は膠着状態になっています。また二〇二三年十月七日にはイスラエルとハマスの間の戦争が始まりました。これはパレスチナのガザ地区を支配するハマスによる奇襲攻撃によって始まったものですが、昨年十月に人質が解放されて、一応収束しました。ただし、この間の犠牲者数は、パレスチナ側に大きく偏っており、紛争の収束は力による平和の側面が強く、多くの問題を残したと思います。さらに大きな驚きは、二月二十八日にアメリカとイスラエルがイランへの大規模な軍事作戦を開始したことです。アメリカとイスラエルによるイラン攻撃は、イランによるホルムズ海峡封鎖という反撃を引き起こし、すでに私たちの身近でもガソリン価格の上昇を引き起こしています。今後の世界経済への影響が非常に懸念されます。

どの戦争でも、町が破壊され、犠牲者が増え続けています。第二次世界大戦後、さまざまな紛争があったものの、世界が発展し、次第に平和へと向かっていくものと考えられていましたが、これらの戦争の勃発によって平和への希望が打ち砕かれ、百年前の世界に戻ってしまったかのように感じます。特に民主主義と国際協調の旗頭であったアメリカがこのように大きく変化したことは、四十年ほど前にアメリカでの生活を経験した私にとっては予想外のことでした。

このように世界は不安定になっていますが、幸い平和な日本に住む私たちは、この平和を積極的に守っていくことが重要です。いま日本には外国から多くの旅行者が来

ていますが、その一つの理由は、日本が平和で安全だからだと思います。平和や安全に価値があり、その価値を守る必要があります。平和や安全を守るためには、人種や文化が異なっても相手の存在を認め、暴力に訴えず話し合いで解決していくことが必要です。これは一言でいえば「多様性を尊重する」ということになると思います。多様性の尊重は社会のさまざまな場面で強調されてきたのですが、最近では、戦争の影響もあり、特定の集団の正当性のみを主張する傾向が強くなっています。例えばアメリカの政治的分断は深刻であり、そのことがアメリカの行動を予測しづらくする要因になっています。特定の立場のみを正しいとする主張は、単純でわかりやすいという面があります。しかし実際には世界は多様で複雑です。滋賀大学で学んだ皆さんは様々な観点から社会を眺める素養を身に付けたものと思います。滋賀大学は「湖国から世界へ」というキャッチフレーズを使っていますが、皆さんが滋賀大学で身に付けた素養を活かし、多様性を尊重し、世界を相手に活躍していただくことを期待しています。

次は日本社会の大きな問題である、少子化の急速な進展についてお話しします。皆さんの世代、つまり現在の十八歳人口ですが、二〇〇八年（平成二十年）の日本の出生数は百十万人ほどでした。ところが昨年の出生数は七十万人ほどですので、この十八年で出生数が三割以上減少しました。実はこのことは、十八年後の大学のあり方にも大きく影響しますので、大学関係者の中でも少子化への対応が熱心に議論されるようになっていきます。ちなみに私は一九五二年生まれですが、その年の出生数は二百万人以上でしたので、昨年の出生数は私の世代と比べると三分の一になります。出生率に密接に関連して、人口の地域間移動の問題があります。東京や大阪などの大都市では、出生率は低いのですが、同時に若い世代が大都市に移住しているため、大都市の人口は安定しています。一方で、人口流出、特に若い世代の流出の多い地域で人口が減少しています。少子化の問題の解決には、出生数を全体として増やすだけではなく、地域間の人口移動の問題も解決していく必要があります。若い人たちの人生設計はそれぞれの人の選択であり、少子化の問題にも簡単な解決策はないと思いますが、社会に出るにあたり次の世代のことも考えるようにしていただきたいと思います。実は、日本の少子化は晩婚化が原因で、結婚したカップルからの出生数はあまり減っていないと言われています。人生の選択は人それぞれですが、将来や次の世代のことにも思いを巡らせていただければと思います。

最後に、技術進歩による社会の変化について述べたいと思います。ここ数年のデジタル技術の発展は目を見張るものがあります。特に二〇二二年十一月に登場したChatGPTは大きな驚きを持って迎えられましたが、生成AIのその後の発展も著しく、今では大学入試問題もうまく解けるようになってきました。今年の大学入学共通テストでは満点に近い成績を残しています。生成AIを活用することによって、生産性を大きく向上することができます。AIの進歩は今後も急速でしょうから、皆さん

も常に学びAIを使いこなす人材になってください。滋賀大学の教育も大きく変えていきます。今後の大学の一つ重要な役割は生涯教育です。急速な技術進歩の中で、最近ではリスキリングという言葉で、社会人の学びなおしの重要性が強調されています。滋賀大学では、社会人のリスキリングの機会も提供していきます。ぜひ、時々滋賀大学に戻り、生涯学びなおす機会を作っていただきたいと思います。

教育学部、研究科、そして専攻科の卒業生、修了生の皆さん。皆さんの多くは教員になり、または現場に復帰されることと思います。また教員ではなく、教育産業や教育以外の場に出でいかれる方もあるでしょう。皆さんに覚えておいてほしいのは、皆さんが滋賀大学で学んだ教育とは、人を創る、人を育てることだということです。社会が急激に変化する中、教育にも革新が必要です。その一方で人類が築いてきた伝統や知恵も、将来の世代に伝えていかなければなりません。教育が果たす大きな役割を忘れずに、社会に出てほしいと願っています。

経済学部及び研究科の卒業生、修了生の皆さん。日本は長い間生産性が向上せず、失われた三十年と言われています。皆さんには日本の経済を力強く再生する役割が期待されています。日本がまだ途上国で、追いつけ追い越せの時代だった頃は、日本人は海外から学び改善する点で大変優れた能力を発揮しました。しかし世界の最先端に追いついたあとの創造性という面では、日本はまだまだであると思います。皆さんには、それぞれ創意工夫をこらし、日本に新たな発展をもたらしていただきたいと思います。

データサイエンス学部及び研究科の卒業生、修了生の皆さん。Society5.0の時代に入ったこの社会を牽引するのは他ならぬデータサイエンスです。滋賀大学データサイエンス学部および大学院で皆さんが受けた教育は、日本をリードする先端的なものであったと思います。自信を持って今後の仕事に取り組んでください。企業からの派遣で修士課程を修了された皆さんは、ご自身の企業に戻って、現場でデータサイエンスを駆使していただけることでしょう。

新しい時代の最前線に立つ皆さん、本日は本当におめでとうございます。滋賀大学を卒業した諸先輩は、社会のあらゆる場面で活躍しています。今日卒業する皆さんの活躍の場は大きく広がっています。あらためて皆さんの新しい門出を祝福いたします。

令和八年三月二十六日

国立大学法人滋賀大学長 竹村 彰通